

## 令和5年度 (一社) 犬山祭保存会理事会 第2回 議事録

### ●日時

令和5年8月5日(土) 19:00~20:30

### ●場所

IMASEN 犬山からくりミュージアム玉屋庄兵衛工房 2F

### ●出席者(敬称略)

【常任理事】会長(石田)、会長代行(多和田)、副会長(大澤、澤野、長谷川)、会計(下山)、財務委員長(今井)、伝統文化副委員長(丹羽)、てこ委員長(浅野)、てこ副委員長(陸浦、吉田)、企画広報委員長(松田)、企画広報副委員長(斉木治郎、柴田、林)、専務理事(溝口)

【理事】枝町組理事(土屋)、魚屋町組理事(小川)、下本町組理事(松岡)、中本町組理事(栗谷)、熊野町組理事(浅野)、本町組理事(安田)、練屋町組理事(小島)、鍛冶屋町理事(市橋)、名栗町組理事(森)、寺内町理事(三輪)、余坂組理事(水野)、外町組理事(伊藤)、鶺鴒町組理事(松田)

【企画広報委員】斉木美加、梅田

【本庁】歴史まちづくり課(市野主査)、経済環境部(中村部長)

【その他】犬山商工会議所(日比野会頭)、観光協会(片山事務局長)、保存会事務員(竹村)

### ●議事

I. ①会長挨拶 ②報告事項

II. 議題

① 50周年誌について

② 第11回日本の祭シンポジウム(9/17)

③ 秋の城下町まつり

## ●配布資料

- ① 今年度祭礼の総括
- ② 次回理事会等のご案内
- ③ 本町車山蔵修理の為の車山移動について
- ④ 春の全国交通安全運動行事へのご参加依頼
- ⑤ 13町内の車山蔵見学(北小白帝ワーク)

## ●議事内容

### I.

#### ① 会長挨拶

- ・本日は、保存会の顧問の日比野良太郎さんをお招きした。以前は保存会の会長もやっていた方である。商工会の前会頭もやっていた。まちづくりの側から見たお話を後程承ろうと思う。

#### ② 報告事項

- ・企画広報委員長：6日の石上げ祭が、県の指定も受けたという関係もあり、保存会としても石を上げたらどうかという議題が出た。企画広報のメンバーで、保存会として石を上げさせていただくことになった。
- ・寺内町：車山の車輪の具合がよくなり、歴史まちづくり課にも見てもらったところ、状態があまりよくないということで、修理も難しいという話のため、新調という形で話を進めている。早急ということなので、早く令和7年度の事業に追加させていただくということで皆さんにご了解をいただきたい。
- ・歴史まちづくり課：専門家とともに車山の輪を見せていただき、早いうちに直した方がよいということで、7年度に可能であれば追加をしたいということで寺内町と話している。6～8年度は中本町さんの事業が決まっているので、上乘せという形となる予定。輪の4本の新調ということで、800万ほどとなる予定。
- ・寺内町：先日、材木町の巻き藁船が復元された。木曾川沿いで組んで提灯を付けた。自町内の囃子を演奏してくれないかということで、川祭という曲を、最初はテープという形だったが、笛と小太鼓でお囃子をやらせていただいた。来年以降どう

なるか分からない状態だが、また皆さんよろしければ足を運んでいただけたらと思う。

- ・会長：寺内町の以前理事をやっていただいていた方を通じて依頼があって、今回行ったということである。私も見に行ったが、お囃子がとても良かった。川祭は三光寺稲荷のお祭だが、我々も今後協力体制をとっていくことも大事であると思い情報提供させていただいた。

## II. 議題

### ① 50周年誌について

- ・企画広報副委員長：犬山祭保存会が今年で50年になるということで以前から50年記念誌を作るということをお伝えしているが、色々と議論をしている。本日、各町内にお渡しした車山の説明文が、現在の祭冊子に載っているものとなる。写真は今年の祭で撮影したものとなる。こちらを次回の冊子や50年誌で挙げさせていただきたいと思っているが、この文章の訂正についてこれまでも報告を受けているので、これを機会に説明文を書き換えてはどうかということで、一度皆様に文章の添削をしていただき、からくりや車山の説明や飾り等について精査していただきたくお配りした。

江戸時代から始まった犬山祭の歴史や、昔から今日までの保存会の歴史をまとめた冊子を作り、また、皆さんにインタビューをさせていただいた現代の里語記のようなものを作る予定である。ご協力のほどよろしくお願いいたします。私も50年誌の編集委員としてやっていき、皆さんにご相談に伺う予定なのでよろしくお願いいたします。

また、物販について、この春の祭で本町のポケットパークで物販のブースを展開した。コロナで売る機会がなかったジップパーカーやポロシャツなどが非常に好評だった。在庫もなくなってきたので、今年度予算に物販の予算を入れさせていただいたので、新しい背中のデザインとして、車山とからくりが載った図案を提案させていただく。

こちらを関係者の皆さんに通常価格より安い価格で先行販売をさせていただく予定。8月30日までの締め切りで10月中旬ごろに商品のお渡しというスケジュールで生産をさせていただく。

グッズの売上は非常に好評で、次回の祭で売るということも考えている。

## ② 第11回日本の祭シンポジウム (9/17)

- ・専務理事：シンポジウムのチラシについて、13町内に、全戸配布の分だけチラシをお配りしたので、周知していただきたいと思う。練り物のご町内は回覧で回していただきたい。

また各役員の方にはメールで送付させていただいたのでご確認いただき、参加をお願いしたい。

## ③ 秋の犬山城下町まつり

10月21日(土) 車山曳回し

10月22日(日) からくり町巡り

### ※祭屋台等製作修理技術社会研修会犬山大会

- ・会長代行：秋の犬山城下町まつりについて、21日に車山の曳き廻し、22日にからくり町巡り。22日には祭屋台等製作修理技術者会もある。それぞれの委員長にお願いをして準備は進んでいるところであるが、本日は、やるかやらないかという判断の中で難しいところもたくさんあると思うが、予算のことも踏まえて、お考えを聞きたいと思う。
- ・経済環境部：まず犬山祭は、犬山市と保存会と観光協会とJCで構成している犬山祭企画委員会で実行している。これは一月の末に総会を行い、その際の予算の編成上はからくり町巡りとしての予算を計上している。それを春の犬山祭で使っているのが現状である。予算としてはほぼ無い状態である。その中で皆様方が車山を揃えるという話になると、お金をかき集めてやるしかないということになる。

今、皆さんが考えていらっしゃるような、夜に車山を揃える際の警備費が300万ほどになる。犬山警察署との打ち合わせで、プロの警備員と、保存会との共同で警

備にあたるといった調整をしてやっていく事になると思う。金銭的には厳しい状況である。ただ、技術者研修会や保存会からも工面するという事なので、そのあたりを調整することになるが、いずれにしても、車山だけでなく通常の警備等のご協力もお願いしたいというのが現状である。

- ・会長代行：秋の犬山城下町祭について、各理事の皆様には、総会の活動方針の中でご説明申し上げ、各ご町内でもご相談されていると思うので、どのような状況かということをお聞きしたい。
- ・枝町：町内でやるべきかどうかという方向性の話を一切行っていないのでお答えできない。
- ・魚屋町：町会長の意向が入っているが、秋の車山を出すのは消極的な立場である。春に思い切りやりたいという思いがある。秋はからくりがメインではないか。車山を出すのは何かの記念事業など、大きな題目があれば考えるが、相当な労力がかかる話なので、今の立場としては車山を出すのは消極的ということで一致している。
- ・下本町：まだ町内で話合っていないし、どういった秋祭りになるのかが全然明確でないので、明確にさせていただいてから町内として判断する予定。
- ・中本町：あまりやりたくないというのが本音であるが、皆さんの様子を見て判断する予定。何のためにやるのかというところをきちっとしていただきたい。また、とにかくお金がない。春だけで精一杯であるのに、それをどうするかという問題がある。町内の方も、やるとなると仕事を休んでやらなければならないが、それに合うメリットがあるのか、という話も出ている。それらを総合すると、きちっとした名分があり費用の問題もクリアされれば皆さんと足並みをそろえてやれるのでは、という意見である。
- ・本町：現在車山蔵の修理をしている。当初は十一月頃の完成の予定だったが、二月くらいの完成を予定している。車山も余坂にお預けしている。幕なども個人宅にお預かりしていただいている、それを急にやると言っても無理なところがある。予算のこともあるが、車山蔵を直すのにもだいぶお金を使っているし、無理な状況である。

- ・鍛冶屋町：10月21・22日のことで、まだ具体的な内容が解らないということで、企画ありきで進んでいる感じがする。町内の意見としては、一日だけからくりを車山の上でやるという方法でも良いのではないかと、という意見も出た。
- ・名栗町：車山は解体して車山蔵に入っている。夜車山の勢揃いということで、当日組んで夜車山にそろえるというくらいしかできないということで、内容がはっきりしないので、名栗としては、その日に車山組みをして、夜に間に合えば夜車山を揃えるということにする、ということはある、ということはある、ということはある。
- ・寺内町：寺内では今年から犬山祭の運営を町内でやっていない。委員会を立ち上げてそこで運営している。予算と方向性をはっきりしていただければ協力させていただく、ということで町内に持っていけるが、現状では内容が薄いので、内容を詰めたいものを出していただければ話をしやすくなる。
- ・余坂：ここ3年で車山会計が、他の会計から工面しているという状況である。秋祭りをやっても良いのではということはあるが、実際に物や人を動かせば出費はかさむので、そこをはっきりさせていただかないと、町内にも意見もあるので、やるのであれば、このようにやる、ということと言えるような状態を作ってもらいたい。
- ・外町：理事会はまだ開いていない状態である。やるのであれば、方向性を示していただければ外町は車山組みをしなければならないので、当番長、町会長含めて前向きに検討する方向で考えている。こういった形でやるのかを町内に示したい。
- ・てこ委員長：今回、車山を秋に出して欲しいということは、各理事さんから、13輦を城前から夜車山を出したいというご希望が多かった。コロナでずっとやれない状態が続く、今年いきなりやるのは危険だったので、今年も従来通りに行った。来年の春の試楽に13輦揃えて城前から出すというご希望をかなえたいと思っているが、30年近く城前から13輦揃えて出すことはやっていない。12年前に山鉾連合会があった時にご協力をいただいて出したが、その時と今とは状況が変わっており、春にいきなり城前に揃えて出すというのは危険であるので、この秋に一度、13輦揃えて、どんな危険が潜んでいるのかを見極めたいという思いもあり、そういった意味を込めて、皆さんに13輦車山を出していただきたいというお願いである。

る。予算が厳しいということも分かっているが、来年春のことを考えて、是非とも出して欲しい。今回出せなければ、来年の春も13輦揃えて出すことはやらないという考えである。

- ・会長代行：夜車山をやるという方向性で進んでいるということで、もう少し練っていただいて、予算なども含めてご提示するような企画案を早急をお願いしたいと思う。
- ・専務理事：各ご町内やてこ委員長のご意見を頂戴して、まず事務局としては、経費について、提灯台、草鞋代やローソク代等は行政からの45万で賄えるという話は行政としている。手当についても、山鉾連合会からイベント料として少し流用しても良いという了承は得てある。保存会としても100万ほど予算は組んである。また各ご町内から出していただいている保険料も本会の方でなんとかできないか考えている。ご町内の負担が少ない方向で考えているので、まずは車山を出そうという方向で考えていただければと思う。
- ・会長：今回理事の皆様からいただいたご意見はもつともであり、事務局からこうするというたたき台として案を出さなければ、各ご町内も具体的には考えられないと思う。まず企画委員会で練って分かりやすい案を出さなければならないと思う。
- ・専務理事：山鉾連合会の、技術者研修会の参加申し込みアンケートを先日全国に発送したばかりであり、その参加者の数によって予算がどれほど流用できるかが明確になる予定である。もう一つ皆様方をお願いしたいのは、秋に車山を出すことには、保存伝承という部分もあるのは強く意識していただきたい。お囃子も一年中練習した方がいいのでは、からくりの練習量が足りないのではという声もあり、秋に保存伝承のためということでやれば会所場も開かれるし、そういった事も含めて考えていただきたい。早急に明確な予算案を含めた企画案を提示するつもりである。
- ・てこ委員長：ご町内の役員の方で決めるだけでなく、てこや若衆の若い方の意見も聞いていただきたい。その上でご町内で相談していただきたい。若い人たちはやりたがっている。お願いします。
- ・会長：保存会の理事の方は、保存会の側に立って考えていただきたい。町内の側に立つのは町会長の仕事である。また、理事は3、4年は固定していただきたい。理

事の方には、保存会全体の立場として町内に相談をしていただくという流れが、犬山祭が、市外の方にも届くような、伝統を守りつつ常に新しく進歩していくものになるのではないかと思います。よろしく申し上げます。

- ・会長代行：各委員会で揉んでい頂いて、企画を立案していただくようお願いいたします。
- ・企画広報副委員長：からくり町巡りについて。基本的に昨年同様のタイムスケジュールで進める予定。できるだけ多くの観光客に見ていただける、一つの場所で見られなくても別の場所で見えていただける機会を作りたいという意味合いから、各町内で1時間ずらして、2回やるという案が出ている。後半についても1時間前倒して2回やるという案が出ていた。詳しい案が出たらまた報告させていただく。
- ・来年度以降、犬山高校の制服が変更となる。
- ・会長代行：伝統文化委員会の内容について、今までは順番にやっていたものを、2ヵ所3ヵ所同時にやって、皆さんに見ていただく機会を散りばめる案にした。次回にはきっちりしたものを出させていただく。

今後の会議の予定として、8月10日に常任理事会、また各委員会を開いていただき、今日のテーマの回答を出していただき、9月上旬の理事会に臨む予定。

- ・専務理事：LOOK犬山祭の冊子を作製したので、また読んでいただくと勉強にもなると思うのでお時間のある時に見ていただけたらと思う。
- ・会長代行：それでは今日はミニ講演会ということで、会長お願いします。
- ・会長：ご存知の通り日比野さんは犬山のまちづくり会社の社長でもある。いわゆる城下町通りのまちづくりの一番の仕掛け人です。今日はまちづくりの立場から犬山祭保存会に要望があればということでお願いをしました。日比野さんよろしくお願いします。
- ・日比野会頭：今日は犬山のまちづくりのことについて、ご理解を願いながらご協力をお願いに参上しました。犬山まちづくり会社が発足したのは石田さんのお骨折りが大きく、今年の9月で20周年を迎えます。それを祝って20周年記念式典を行

いたいと計画中です。私どもがまちづくり株式会社を立ち上げた頃は本町通りはシャッター通りでした。その一つの原因は、イトーヨーカドーを誘致したことにあります。誘致後、しばらくシャッター通りが続いたのは、この本町通りから、テナントとしてイトーヨーカドーに60店舗ほど移ってしまったからです。当時の法律は、ヨーカドーに出店する人は自分の店を閉めて移動しなさいというものでした。それを守らないとできなかつたので、本町通りの皆さんにシャッターを下ろしてヨーカドーに入って下さいという形をとって、城下町がシャッター通りになってしまったという歴史があります。私自身もヨーカドー誘致に一生懸命になった一人でありますので、今振り返りますと、大変寂しい城下町になってしまったということで、罪滅ぼしで城下町を活性化しないといけない、というのがスタートの思いでした。当時、国交省がそのことに気が付きまして、全国の城下町がどこもシャッター通りになってしまったのですね。一部には既に城下町を壊して、道路の拡幅をしたところもありました。そして国交省は、株式会社でまちづくりを認めるという法律を作りました。これを「まちづくり三法」と言いますが、その勉強会が愛知県から沖縄までは宮崎で、静岡から北海道までは東京でありました。当時私は商工会議所の副会頭でまちづくり委員会を担当していましたので、委員会の皆さんと職員を伴い二十数名で二泊三日で宮崎へ勉強会に行きました。その時、皆さんが、国が良い提案をしているのでやろうじゃないか、ということになりました。これは、資本金の二分の一は行政が提供するので、残り二分の一は民間で集めなさいというものでした。私はすぐに当時の石田市長に、1500万出して下さいとお願いしました。そして民間で5万円の株券を皆さんに買っていただくという形で1500万用意し、合計3000万円の資本金でスタートしました。

やった事としては、シャッターの閉まったお店を訪問して、貸していただきたいというお願いをしました。なかなか貸していただけないところを、一軒ずつお願いして集めました。やり方としては、そこを改装して入居者を募集するというもので、現在17店舗運営をしています。そういった形で徐々にシャッターが上がってきたという歴史があります。その頃に、この城下町を拡幅するという政策もあり、松山市長の時に、次の選挙に当選したら城下町を拡幅して車道と歩道を作るといふ、現在の下本町のようにやろうという計画が進んでいました。それに対して、私はどうしても反対の気持ちが強く、城下町を残したいと思い、石田さんに相談に行

きました。石田さんは当時県会議員でしたが、なんとか市長になって欲しいとお願いしました。大変な選挙でした。ちょうど私は副会頭をしておりましたが、もし石田さんが負けたらお前は犬山には居られないぞとまで言われました。ですが私はこの城下町を守ってこの風情を後世に残したいという気持ちで応援し、石田さんが市長に当選されて、都市計画路線を廃止に追い込みました。

都市計画路線を廃止に追い込むのは犬山が全国で初めてでした。例外で国交省が、京都先斗町は外せということで残りました。私は全国に都市計画路線を廃止に追い込む市町があってもいいと思っていたが、犬山が日本で初めてだった。都市計画路線というのは昭和 20 年代頃に全国にひかれたのですが、国交省の方に、この都市計画路線はいつ実行するのかという話をしたところ、日本の家屋は木造だからいつか朽ちて終わるので、新しく建てる時には都市計画路線に従わなければならない、それを待っているという法律だと言われてびっくりしました。それよりは廃止して今ある城下町をきちっと整備しながら後世に残した方が良くはないかという考えで城下町を残しました。これは石田さんの決断でもあったわけです。

今度、先ほど申し上げた通り 9 月に 20 周年をやりますが、感謝状を石田さんにも贈呈する用意をしています。

祭の風情というものは、江戸時代の町並みが残ってこそ効果が大変上がっているのではないかと思います。

本日お願いに参ったのは、まちづくり株式会社は年間に 7 回の酒まつりをやっています。ビールまつりをスタートに、日本酒まつり、焼酎まつり、どぶろくまつり、ワインまつり、石垣の泡盛まつりなどをやっていますが、これを実行する我々の仲間が高齢化が進み、大変なことになってきております。シルバー人材センターにお願いしてなんとか乗り切ろうとしていますが、シルバーさんも高齢になってきています。どうかこのまちづくり株式会社と保存会の若い皆さんが、応援団として酒まつりの設営などのお手伝いの応援にきていただけたら助かります、という思いでお願いをしたくお時間を作って頂きました。やってみると大変楽しいお祭りですが、これを続けていくには設営の問題があり、更にコロナで休止していたことが拍車をかけています。有志の方で結構なので手伝って頂ける方がいらっしゃったら是非まちづくりのために協力していただけたらと思います。「つなぐ・ひきつぐ・ささえ

る」とありますが、私共も犬山の城下町を一生懸命支えようとしています。保存会の皆さんも同じ気持ちだと思います、お祭を今の子供たちに、あるいは100年後200年後に伝えていくために今繋ぐという役割を我々は果たしていると思っています。そういうことで、我々も微力ですが保存会さんと一緒に犬山のまちづくりに貢献していきたいという思いで、本日はお邪魔させていただきました。

鉄の宰相と言われるビスマルクが、「愚者は経験に頼り、賢者は歴史に学ぶ」と言っています。長い歴史を見ると、保存会さんの祭が今日まで繋がっているこの歴史を振り返りながら後世に繋ぐ、ということではないかと思いますし、お祭りだけではなく、この犬山というお城を中心に開けた城下町、これを後世に受け継いでいくという使命が我々にはあります。歴史に学びながら、更に魅力ある、住みやすい、みんなに愛される犬山にするために皆で頑張っていきたいと思っております。どうか若い方にお手伝いをいただけますようお願いを申し上げて本日のお話とさせていただきます。

- ・会長：日比野さんは昔の城下町の人脈をととてもよく覚えておられる。保存会が出来て今年で50年になるが、50年誌の中で昔のことを何名かに語って頂く予定。単なる記録ではなく人間の記憶を語る50年誌としたい。その中の一人として日比野さんに語っていただきたいと考えている。皆さんの中にも記憶を語って頂く方を人選する予定。この50年誌の中に100年先のビジョンを入れていく予定である。

犬山祭はこの城下町に住んでいる人たちの幸せと豊かな生活のためにあり、コミュニティを支える最良の装置であると思うので、皆さんからご意見を賜りつつ、この城下町を支えていきたい。

先程お話を聞いていて、市長の時に拡幅を辞めるという運動をしたのが、ちょうど今の城前の角のところで、高層ビルの建築が計画されていた。それについて、反対運動が起きた。それが火付け役となり、お城に似合うような町づくりをしようという運動が起きた。そこで、拡幅すると車が入って来るぞということになり、話が進んでいった。この北地区は拡幅への賛成と反対で完全に二分化し、激しい論争が起こった。この保存会も二分化した。市長になり、市の職員を通じて拡幅を辞めますということをお話をした。魚屋町の方は拡幅派だったが、拡幅すると余坂の木戸口がなくなるという意見を聞いて、それはダメだということで意見が変わった。拡幅

派の人に、祭をやるにはどちらが良いかという論点で話をした。そうすると祭を一生懸命やっている人は拡幅を辞めた方が良いという方に話が進んでいった。

全国のあちこちの町も見に行った。そうやって皆さんの意見を三年かけて集約して拡幅しないという方向に行った。その間には日比野さんから商工会議所としての立場の意見もあり今日の姿となった。祭を守ろうとする人たちの意見が主流を占めたということである。我々は50年先の城下町の在り方を見て犬山祭の今後を考えなければならない。

- ・日比野会頭：福祉会館跡地について、お城とともに歴史的史跡に指定を受けようという動きがあります。行政側から、向かい側の旧しみんていも含めて、史跡に追加指定するという案を管理委員会から提案されました。ところが賛成と反対に二分化して取りまとめができなくなっています。もう少し時間をかけて皆さんの意見を集約したいということで持ち越しにしています。

元々福祉会館を壊すにあたって、行政側が、地域住民の方にご不便をかけるということもあり、その暁には似たような施設を作るということを壊す前の条件のように語られていました。ところが史跡指定されてしまうと、集会所や公民館などは作れなくなる。例えば金沢の兼六園のような文化的なものはできるが、民間の建造物はできなくなるという状況です。あの広大な跡地をどう利用したら良いかということをご意見をいただけたらと思います。お城に近く非常に大きな面積ですが、国指定をすると、当面は民間開発はできなくなります。

例えば、史跡指定は受けずにみんなが使えるような建造物を作ってはどうか、といったご意見はありますか。

- ・会長：今本町通でも、外から来た方がお店をやっていたりするが、パートとして地域の方が働いている。これはなかなか良い事であり、まちづくり株式会社はそういったことを率先してやってくださっている。地元の人々の収入が少しでも増えるということは大事なことである。OBの人でも、地域での収入があれば、いい町になる。それを、史跡指定してそういった店を作るなどということになると、まちづくりの角度がまた全然変わってくる。文化のまちなので史跡指定すべきだという意見もある。これは我々城下町に関わる人間に対して突き付けられた議論だと思う。イン

ディゴでも、世界のトップクラスのホテルではあるが、地域の人よりも世界の人に来ていただきたいという方針であり、市民の立場から見たらどうなのかという議論もある。多様性の時代なので、様々な意見を包含して受け入れるということもあるかもしれないが、やはり犬山は犬山として、そこに住んでいる人たちが幸せにやっ  
ていける方向を保存会の皆さんで協議した方が良いと思う。

本日、石取祭に行ってきたが、あそこは自分達でお金を集めている。一人で200万、300万と出す人もいる。地方の祭というのは、その土地の癖がついている。犬山は犬山の良い所、その癖を忘れないようにして、犬山祭が生きがいであるという人も大事にしなければならないし、それと同時に、広い視野で色々な価値観を入れつつ継続していくことも大事である。日比野さんにはこれからも来ていただき、色々なお話をしていただけたらと思う。

- ・日比野会頭：折衷案というものもあり、例えば史跡指定は20年後にしてもいい、それまでの20年間はフリーに使えるようなものにしたらどうか、という案も出ています。また、お祭の日に限って、あそこを棧敷の観覧席にして優良席としてマネーメイキングをしたらどうか、という意見もあります。有料席で祇園さんも相当お金を稼いでいます。犬山にはそういった有料席のような場所がないので、それがあれば、色々な方を招待できるのでは。色々な方をお祭りに招待しても、座っていただける場所がない、という状態なので、もしそういうものがあつたらありがたいと思います。
- ・会長：こういった席をまた設けたいと思うので、またご意見があつたらお願いしたい。

高山では外国の方が多く、外国の方に祭に参加させる工夫をしている。今回の日本の祭シンポジウムで、愛知・岐阜・三重の東海三県で、ユネスコ登録の祭りが11ある。その会長を全部犬山に集めて、連携する予定である。日本の祭の特徴は、他の祭と関わることがなく、むしろ他の祭のことを褒めたりすると裏切り者のような気持ちになるのが日本人であり、これではいけないということで、今回、11の祭団体に犬山に来ていただくということである。その方たちに、どのような話をするかについて、専務理事から説明していただく。

- ・専務理事：ユネスコ指定である全国の33の祭のうち、愛知が最多であり、東海地方と中部地区を合わせるとほぼ半数を占める。愛知県は、大村知事が作られたあいち山車まつり日本一協議会が、全国が注目している。県単位でそのような組織があるのは愛知だけであり、全国の祭関係者が、自分たちの地域でもそのような組織を作りたい、という要望がある。こういった組織を作った立役者は石田会長である。全国の祭を仕切っている祇園も、愛知県を、犬山を見習えということで注目している。今回のシンポジウムに、祇園の本部の方も来る。石田会長が進めている東海三県の組織は、高山にまずは持ち回りの会長を最初に引き受けていただき、事務局は愛知県文化財室及び犬山祭保存会として立ち上げる予定。なんとかうまく連携をしていけるように望んでいる。

また、観光協会にお願いしたいのは、技術者研修会の会議は100%文化庁の予算で行われるものなので、観光協会に宿泊をマネジメントしていただきたいと思っているのでよろしくお願ひしたい。

- ・会長代行：次回理事会は9月上旬となる。よろしくお願ひいたします。

●次回日時

令和5年9月9日

●次回場所

からくり館二階

●記録日

令和5年8月12日

●記録者

竹村

●署名

石田芳弘

多和田兼道